

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	平成17年度、開所時の理念を地域密着型開始に伴い再構築をし掲げている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員に認識してもらうよう目の付く所に掲示し、毎朝のミーティングにて唱和している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	訪問者やご家族の方にもよく目の付く所へ掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や買い物などに出掛けた際には挨拶を交わしたり、交流を図るようにしている。また近隣の方が気軽に来園していただけるよう看板を設置したり、併設施設の利用者との交流も図っている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域行事、清掃活動、隣接の保育センターの行事等、利用者と共に参加するようにし、交流に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々に老人介護、認知症をよりいっそう理解していただく為に、講習会等にて職員が講師を務めさせていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する事により、施設内の業務を見直す事ができ、ルーティンワークにならないような取り組みができています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開く事で、家族、地域、行政からの意見をいただき、現在実施している業務の見直しができ、また、改善ができています。	○	前年度より2ヶ月に1回の開催を委員の方に働きかけているが、なかなか実行できていないのが現状である。今後も開催を求めていきたいと思っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	契約、規約の変更の際には報告に出向いたり、毎月一回はホーム便りを送付するようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度の利用者がいる事で、以前に比べ制度が身近に感じられているように思う。	○	利用者はいるが、まだ制度の理解が不十分であり、勉強が必要である。資料見聞したり、学ぶ機会を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないケアを日ごろより行っている。研修会には積極的に参加し、職員間で話し合う場を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得が得られるまで十分な説明を行い同意を得ている。不安、疑問があれば随時説明を行い理解をいただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者、管理者、職員は常に意見を聞く姿勢を持つようになっている。しかし、言いにくい意見は意見箱、外部評価等で知る事ができ、運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず状態や近況報告をしている。緊急時は電話にて報告をし、記録を残すようにしている。また、毎月ホーム便りを作成し、職員異動や個々の状況等記入し送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情が言いやすい環境に務めている。出された意見は職員間で話し合い、より良いケアや運営に繋げている。外部にも苦情受付機関がある事を知っていただけるよう掲示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に現場に入り職員の意見を聞くようにしている。意見は大事にし、運営者にも報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活リズムを崩さないよう、シフトを組んでいる。管理者はシフトに入らない事で、柔軟な対応ができるようになっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間等の連絡を強化し、利用者へのサービスの低下を招かないよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	老施協、社会福祉協議会等の研修には積極的に参加し、また、施設内でもミーティング、勉強会を実施している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームが有り、情報の交流がある。また、老施協加入のグループホームとの研修、交流が有りサービスの向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会を作っており、旅行、阿波踊り、忘年会等の行事を実施している。また、運営者、管理者は常に職員、利用者の意見等を考慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自分の行っている仕事がいかに大切な事か、重要な事かを認識していただくと共に、ボーナス、給料等も考慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に生活状態を知る為、両者が行き来し、信頼関係を築くように努めている。また本人の思いを受け止め、解決策を共に考えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	親身になって話を聞き状態把握に努め、適切かつご家族の納得されるアドバイスができるよう心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを受け止め、改善に向けたアドバイスを広い視野から見つめ、希望にそったサービスが提供できるよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学していただいたり、併設のデイサービス・ショートステイを利用されている時はこちらから出向きお話をさせてもらっている。急に利用開始になられた場合は、状態を早く見極め、気配りを行い、生活に馴染めれるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員が協力し合い日々明るく楽しく生活できるよう、声かけに配慮し、支えあって生活をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の様子をこまめに伝えている。家族と共に利用者の支援を考え、生活の中での喜びを伝え共に喜んだりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にもグループホームでの行事に参加していただけるよう働きかけたり、本人、家族の思いや状況を把握し、少しでも一緒に過ごせる時間が増えるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば行きつけの美容院に出掛けたり、彼岸にはお墓参りに行ったり、また知人との関係が途絶えぬよう、手紙や電話等の支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で過ごせる時間、場を提供できるよう、必要に応じて声かけ見守りを行っている。自分のできる事で他の方の手助けを行ったりと毎日のように微笑ましい光景が見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後に、併設施設を利用されている場合は行き来し馴染みの関係を継続させている。入院のために退居された場合もお見舞いに行く等したり、家族に電話連絡を行い状況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より思いや希望を理解できるよう、話に耳を傾けたり、表情や行動にも留意しながら声かけを行っている。意思疎通が困難な方についても同様に表情を読み取るように努め、また、家族、関係者から情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し家族、関係者に協力していただき情報を得たり、生活の中で接する事や会話の中から見出せるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人個人のペースを大事にし、サポートするようにしている。できる事、できない事シートの作成や生活の中から有する力等の現状を全体的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく生活していただく為に、日頃より本人、家族から意見や要望を聞き、それを踏まえカンファレンスにて介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に確認して頂き署名、捺印をしてもらっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化があれば、その都度検討し見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子や生活記録等、細かい所まで記録している。個人個人にとって最善と思われる介護方法等も記入し介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かす事により入院の回避ができ、慣れたホームでの生活が継続されている。また、要望に応じ併設施設への移動等状況に応じ柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育センターの子どもたちとの交流や学生の職場体験の受け入れ等を行っている。毎月1回は福祉協力委員の訪問、また不定期ではあるが音楽ボランティアの訪問もある。	○	公共施設との連携が少ないように思われる為、積極的に働きかけ協力を求めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーを通じサービス事業者と交流を図るようにしている。他の事業所の情報を得る為、ケアマネジャーと話し合う場を持っている。	○	本人、家族の思いや希望を叶えられるよう、広い視野から考え、他の事業所やケアマネジャーとの交流をもっと深めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの方に運営推進委員として会議に参加していただいている為、情報交換や話し合う場があり協働できている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により主治医を決めている。適切な医療が受けられるよう、医療機関、家族との連絡を密にし協力し合い支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医が月に2回往診して下さっている。また、緊急時も連絡が取れるようになっている。日頃から対処方法を教わったり、相談にのっていただく事もある。利用者も気軽に会話したり相談されたりしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループ内の看護師や訪問看護師により日常の健康管理や医療機関との連携が確保されている。医療についての疑問は気軽に相談し、教わっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間をできるだけ短くするよう担当医師や看護師、家族と情報交換し早期退院に向け連携をとっている。情報は退院後に備え全職員に伝えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針を作成し、契約書に組み込んでいる。契約時には充分説明を行い同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化対応や終末期に対応できるよう、勉強会を行ったり、主治医と常に相談し合い検討している。	○	医療機関、訪問看護と連携をとり、利用者、家族の気持ちを大切にしながら安心して終末期を迎えていただけるよう取り組みをしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設や医療機関へ住み変わられる際にはプライバシーに配慮して情報提供を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃より言葉かけや介護には気をつけプライドを傷つけないよう細心の注意を図っている。記録等も保管し個人情報保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者に合わせた声かけを行っている。意思表示の困難な方には日頃から関わりを多く持ち表情を読み取れるよう努力している。また、状態に応じ自己決定を行えるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせ無理強いせず、本人のペースにそった過ごし方を支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を尊重しつつ外出や行事時などはおしゃれができるよう支援している。毛染めや化粧を希望される方があれば支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に献立を考えたり、嗜好調査を取り入れている。食事準備や後片付けも一緒に行うようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎晩ビールを飲まれる方や、煙草の好きな方とさまざまであるが個々の状態に応じ提供したり、支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄習慣や排泄パターンを把握しトイレ誘導をする事でトイレでの排泄を支援している。おしめ使用者に対しても状態を把握し、相談、検討し目標を立て自立支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めず、利用者の希望を優先している。拒否される方には声かけの工夫、時間の変更、声かけの職員を変えたりと楽しく入浴ができるよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	共用空間にソファ、畳を設置し、くつろぎの場の提供をしている。冬場にはこたつを設置し、家庭的な雰囲気でお休みしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な事を見つけ、自信を高められるような声かけや支援を行っている。また、ホームで犬を飼い散歩などを行い生きがいとなっている方もいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少しのお金を持っている方もいる。買い物に出掛けた際、自分で支払いをしていただくよう工夫し自立支援に繋げている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、体調に応じ希望にそって散歩、ドライブ等、外の空気に触れる時間を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の花見、大型スーパーへの買い物、映画鑑賞などに出掛けたりしている。個別では馴染みの場所への外出支援を行ったり、お食事会等も開催している。	○	利用者、家族と一緒に外出できるよう家族と相談しながら機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人との関係が途絶えないよう電話連絡や手紙の代筆を頼まれれば対応している。また、ホーム便りには本人にコメントを書いてもらう場合もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方が気軽に訪問しやすいように支援している。家庭的な雰囲気ですぐに迎える事により、デイサービスを利用されている方も気軽に訪問してくださっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より身体拘束をしないケアを心がけているが、必要な場合は家族等へ説明を行い理解を得、同意書に署名していただいている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	地域の方々、併設施設に理解、協力を求めホーム全体の見守りを行っている。利用者が外出しそうな時は、さりげなく声かけしたり一緒に外出するなどし、安全に生活していただけるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず利用者の居場所は把握し、さりげなく見守り、声かけを行っている。居室内で長時間過ごされる方には随時声かけや訪室するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所用品や危険物は施錠できる所へ保管するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態を充分把握して想定できる危険を予測し、話し合い予防法を検討している。食材を細かく切ったり、トロミ粉を使用したり、服薬時の名前確認と事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を行ったり、緊急時の対応法を看護師に教わっている。緊急対応マニュアルを作成し、全職員に周知徹底できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	対応マニュアルがあり、それに基づき年2回消防避難訓練を行っている。また、地域の消防団に協力が得られる等に体制がとられている。	○	非常食や非常持ち出し物等の準備を検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員間で個々のリスクを考え家族に説明し、協力してもらいながら抑圧感のない生活に向け理解を求めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段より、様子観察をし、訪問看護との連携により異変の早期発見に努めている。変化に気づいた時はマニュアルに基づき速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬や効能等を一覧にし、ファイルにしたものを見やすい所へ置いている。副作用により起こりうるリスクの対処方法を学んでいる。服薬確認も毎食必ず行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材を工夫し提供したり、水分補給も細めに行っている。また、体を動かしたり、便秘解消のマッサージも取り入れスムーズに自然排便ができるよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は口腔ケアを行い、ケアが必要な方には支援している。希望により夜間、義歯の管理が困難な方は預かり保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気を付け献立を立て定期的に栄養士にチェックしていただいている。食事は職員と共に摂取する為、声かけを行ったりと気を付けている。摂取量は毎食チェックし記入している。個々の状態や慢性疾患の方には留意し個々に合わせた調理方法を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止の為、新しい情報を得る為に保健所主体の研修には参加し、情報を職員へ伝達している。職員、利用者はもちろん来園者にも手洗い消毒を行っていただくよう声かけをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生面には気を配り調理器具の消毒を行っている。食材は毎日、買い物に出掛け新鮮な物を提供するようにしている。点検係を交代で行い細めに食材管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	訪問していただきやすいよう看板を設置している。周囲には花を植えたりし、親しみやすい環境を工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに過ごしてもらえよう、音楽や童謡を流したり季節の花を生けたり、雛人形、五月人形等飾り、季節感を味わってもらえるようにしている。不快な音や、においは出さないように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下にソファ、畳コーナーを設けたり、外にはベンチを置き、独りで過ごしたり、気の合うもの同士で語り合える場を提供し、安心して過ごせる共用の生活空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合い、使い慣れた物や家具など持参してもらったり、大切にしている物、馴染みの物を活かして以前と変わらない生活が送れるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に冷暖房完備しているが、フロアにて調節ができるようになっており空調管理を行っている。空気清浄機を活用したり、1～2時間おきには換気を行っている。共用スペースでは、温、湿度計を使用し、快適空間に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々安全に生活でき、身体機能が活用できるよう環境づくりを工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を目指し、一人ひとりの持っている力を見いだせれる様、全職員で不安や混乱を取り除く工夫をし、個人の状態に応じ支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや園外には花を植えたり、季節の野菜を栽培し草取りや水やり等、利用者で行いお世話をしている。外にベンチを置き日光浴や夕涼みをし、自由に過ごされている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、職員が穏かであり、明るい笑顔にあふれ家庭的な雰囲気である。

自然に囲まれ四季を肌で感じる事ができたり、高速道路のインターが近くにあり交通の便も良い。地域の方々にも暖かく接していただき地域密着型施設になっている。四国八十八ヶ所のお遍路沿いにホームがある為、看板を設置し気軽に訪問していただきお接待が行えるようにしている。訪問時は利用者と共に休憩していただき交流を持つ事で利用者も喜ばれるし、訪問者にとってはグループホームや認知症への理解と繋がっていくと思われる。